

2016年9月5日

スカパーJSAT株式会社

スカパーJSAT株式会社、低軌道衛星向けビジネスへ進出 ～低軌道衛星向け地上局サービスを2017年度に開始予定～

スカパーJSAT 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 執行役員社長 高田真治、以下スカパーJSAT）は、2017年度第1四半期に低軌道衛星向け地上局サービスを開始する予定であることをお知らせします。

1989年のサービス開始以来、スカパーJSATは静止軌道上に通信衛星を保有し（本日現在、軌道上に17機保有）静止衛星ビジネスを展開してまいりましたが、今後は低軌道衛星ビジネスにも進出いたします。技術発展に伴う衛星の小型化や、廉価な衛星打ち上げサービスの拡大を背景に、低軌道衛星は革新的成長を遂げる可能性のある分野として注目されており、スカパーJSATは、アジア・太平洋地域での低軌道衛星向け地上局サービスに参入いたします。なお、2017年度第1四半期のサービス開始を前に、スカパーJSATの茨城ネットワーク管制センターに地上局設備を構築することを決定しております。

低軌道衛星向け地上局サービスは欧米を中心に展開されておりますが、アジア・太平洋地域への本格進出はこれからです。スカパーJSATはアジア最大の衛星通信事業者として、また、会社設立以来20機以上の静止衛星の管制・運用で培った技術力や経験をベースに地上局サービスに参入し、今後も活躍の場を拡大してまいります。

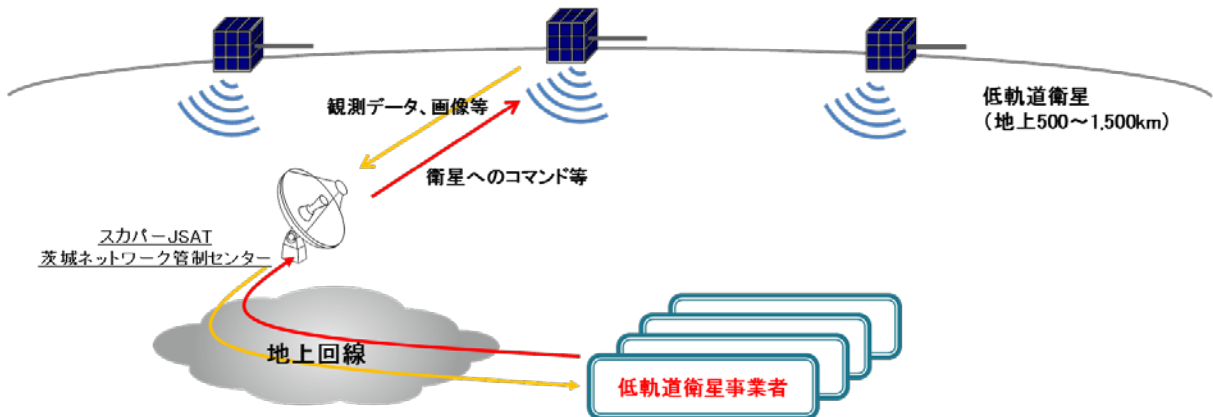
以 上

添付資料

<茨城ネットワーク管制センター (写真)>



<地上局サービスイメージ (リモートセンシング (観測) 用の低軌道衛星の場合)>



<低軌道衛星について>



▲上空通過時に通信や観測を行う
軌道次第で様々な地域の上空を通過▶



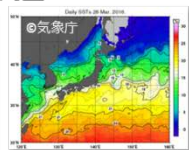
地球を周回しながらの通信・観測が可能
→取得データの分析、応用利用

■ 低軌道衛星の特徴

- ☞ 通信関連
 - 通信遅延の低減
 - 機器の小型化
- ☞ 観測関連
 - 赤外線やレーダ等で様々な用途の観測が可能
 - 画像撮影時の分解能向上



▲可視光画像



▲海水温マップ

- ☞ 軌道投入、開発等のコストが低い
- ☞ 周回軌道のため、ほぼ全球がサービス対象